

かまどベンチ製作

住民や高校生ら 災害に備え

田辺東部小

田辺市の田辺東部小学校で26日、地域住民や高校生らが災害に備えて「かまどベンチ」を作った。11月9日に同校である「ひがしふれあい秋祭り」(実行委員会主催)での炊き出し訓練で活用するといった。

同校や地元の町内会、田辺工業高校などでつくる「ひがし防災連絡協議会主催の「ひがし防災カレッジ」(全4回)の3回目。普段はベンチとして使い、災害時はかまどになる「かまどベンチ」は左官業の地域住民が図面を書き、製作を助言。前回は協議会のメンバーが基礎を手掛けた。

この日は協議会の地域住民や田辺工業高校の生徒らが助言を受けながら、田辺東部小

かまどベンチを作った「ひがし防災カレッジ」
(田辺市南新万で)



のグラウンドにかまどベンチ二つを完成させた。れんがを積み上げ、同校の生徒が作った鉄枠を取り付けて天板を載

せた。大きさは高さが約30センチ、約40センチ、ともに横が約190センチ、縦が約70センチ。それぞれれんがの段数や炊き口の上の

れんがの有無が異なり、使い勝手をみて今後に生かしたいという。

田辺工業高校からは生徒会役員で3年生の下平直輝君と玉置将平君、2年生の中松美穂さんが参加。下平君は「し

つた物で、いざというときに機能を発揮できればと思う」といい、ひがし公民館の吹揚克之館長は「災害時は多くの方が田辺東部小学校やひがしコミュニティセンターに避難されると思う。災害時の中心的な施設になり、備えが必要」と話した。